
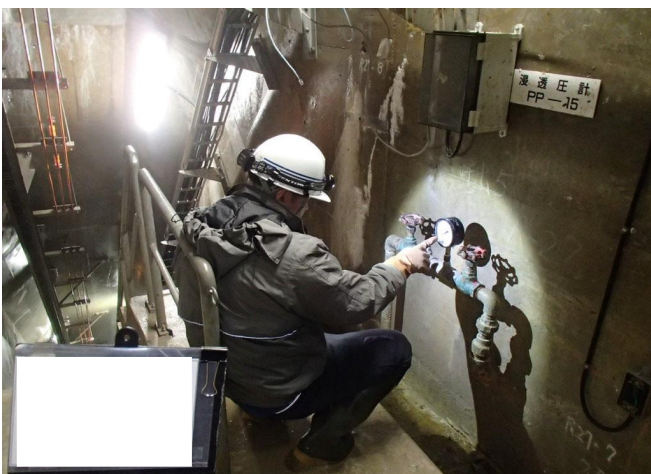


件名： 奈良俣ダム堤体観測自動化検討業務（仮称）

質問に対する回答

Q1.	見積の作成にあたりまして、現状の観測状況及び観測手法の詳細についてのご教示をお願いいたします。		
A1.	<p>自動化検討対象としている基礎排水孔（PP 1～PP18）におけます現状の観測状況につきましては、参考として以下のとおりです。</p> <p>現在の観測は、監査廊内の基礎排水孔（18孔）を対象に、浸透量及び浸透圧について、原則として月1回の頻度で、人力による手計測により実施しております。</p> <p>なお、本業務は当該観測作業そのものを実施又は代行する業務ではなく、現行の観測内容及び観測手法を踏まえた上で、観測業務の自動化に関する調査・検討及び導入可能性の評価を行うことを目的としています。</p>		
	奈良俣ダム堤体観測		
		浸透量	浸透圧
	観測頻度	1回／月（12回／年）	1回／月（12回／年）
	箇所数	18孔	18孔
観測項目	浸透量	浸透圧	
観測手法	<p>メスシリンダー又はバケツ等により一定時間の浸透量を測定するものとする。</p> <p>なお、計測は圧力計の堤体側のバルブを開放し、開放直後の浸透水の勢いが落ち着いた後に計測するものとする。</p> <p>※測定時間は1分間を原則とするが、漏水量が多く都合により1分間測定することが困難な場合は、測定時間を短縮できるものとする。その際は、測定した時間を記録するものとする。</p> <p>なお、測定時間が30秒以下の場合は2回以上測定し平均値を採用するものとする。</p>	<p>浸透量観測後に圧力計外側のバルブを閉操作し、一定時間（2時間程度）経過後の圧力計の値を測定するものとする。</p> <p>なお、観測後は堤体側のバルブを全閉、圧力計外側のバルブを全開にしておく。</p>	
観測状況写真			
※上記に示す観測手法は現行観測の実態を参考として示すものであり、本業務において同等の手順による観測作業の実施、再現又は立会いを求めるものではありません。			